

国際理解教育指導案

対 象 2 学年

指導者 野澤 敬之

1、単元名 「多面的なオーストラリア発見 ～豪日の比較を通して～」

2、単元について

(1) 教材について

2000年のテレビ番組を見ると、オーストラリアの特別番組がいたるテレビ局で見られた。シドニーオリンピックがあったせいもあるだろうが、2時間ドラマにまでオーストラリアの観光地を巡る番組も見受けられた。また、行ってみたい国の上位には常にオーストラリアがあげられる。このことから、日本人がオーストラリアにどれだけ興味を持っているかが理解できるだろう。興味がある理由の一つとしては、美しい自然や珍しい動物があることがあげられるだろう。書店でもオーストラリアの自然や動物をとりあげた旅行雑誌が多く並んでいるが、残念なことにオーストラリアの文化や歴史に触れている本はそれほど多くない。

中学校の社会科の教科書に目を向ければ、現在オーストラリアは「日本と国際社会」の中で、日本との関係として扱われているが、オーストラリアを十分理解できる内容とは言えないであろう。平成14年度から実施される新学習指導要領では、社会科の授業時数が削減される。地理的分野では、世界の国から数カ国取り上げて学習することになっているが、オーストラリアの学習が現在よりも飛躍的に前進する事はあまり期待できない。

その一方で、日本人のオーストラリアへの観光客は増え、高校生の修学旅行先にもなっている。オリンピック施設やホテルなどの建設には、日本の大手ゼネコンが活躍し、シドニーの街には日本企業の広告が多く見られる。また、オーストラリアはAPECの一員として、アジア、とりわけ日本との関わりを深めている。そのためもあってか、オーストラリアでは日本語を学ぶ人が増えてきているという。

さらに、国際理解教育や異文化教育が重要視されてきていることを考えても、オーストラリアを学習することは、価値あることだと考える。

以上の事から、オーストラリアについて、社会科以外の時間に学習することは重要であると考え。今回は、オーストラリアと日本を比較しながら、異文化や家族、地球環境問題などについても考えさせていきたい。

(2) 単元の目標

オーストラリアや日本についてビデオや文字資料などを見たり比較する事によって、多面的なオーストラリアについて気づき、自分の生活や家族との関わりについて再考することができる。

3、指導観および教材開発や展開のポイント

生徒のオーストラリアに対する知識は、豊富だとは言いがたい。「アボリジニ」、「カンガルー」、「コアラ」、「シドニーオリンピック」は良く知っているが、オーストラリアの首相の名前は言えない。オーストラリアの首都は「シドニー」だと思っている生徒さえいる。これは、情報量の多さによるところが大きいだろう。テレビでは多くのオーストラリアが紹介されているが、そのほとんどが、「観光」や「自然」を扱ったものである。

つまり、多面的なオーストラリアのごく一部分しか日本に紹介されていないのである。これらの「点」を結び「線」にすること、さらに、線と線を結び「平面」にすることが多面的なオーストラリア理解につながると考えた。

「点」と「点」を結ぶ手段として、「オーストラリア発見」のビデオや、各州政府の日本代表事務所から取り寄せた資料、オーストラリアで購入した資料等を使用する。さらに、日本とオーストラリアを比較することによって、理解を深めたいと考えている。ただし、双方の優越をつけるのではなく、あくまで異文化や考え方の違いを理解するために比較するものである。

以上述べてきたように、今回の授業ではテレビの番組や雑誌の資料をもとにして、それを補足する資料提示することによって多面的なオーストラリアを理解させたいと考えている。

4、単元の指導計画（17時間扱い）

時間	指導内容	指導のねらい
第1時	多文化主義	日本も多民族国家ではあるが、オーストラリアほどではない。教室を見回しても、同じような顔ばかりである。そこで、マイノリティとマジョリティのそれぞれの立場を、ディスクリマドットのゲームを通じて疑似体験し、そこから少数民族を尊重する必要性を考え、多文化主義を理解させる。
第2時から 第4時	アボリジニとアイヌ	オーストラリアの先住民アボリジニと日本のアイヌには、共通点も多い。古くから伝わる伝説、歴史、現在おかれている立場など、比較しながら理解させる。
第5時	日本の自然・環境	日本の自然・環境破壊を琵琶湖の外来種（ブラックバス、ブルーギル）問題、沖縄のマングース捕獲作戦、屋久島のためき、地元国立公園十和田湖の外来種問題、学区にあるビオトープ事業の池から捕獲されたブラックバスなどについて環境破壊が進んでいること、環境破壊や外来種問題は、人間が引き起こしていることを理解させる。
第6時	オーストラリアの自然・環境	シードラゴン、赤バツタ、グレートバリアリーフの珊瑚礁や海、タスマニアの水のテレビ番組を通じて、自然が残っていること、「オーストラリア発見」のビデオから、そのオーストラリアでも環境破壊が進んでいたことを理解させる。
第7時から 第8時	日本とオーストラリアの環境対策	日本からは、大企業の環境対策、青森県の企業のペーパーレス化、十和田市のリサイクル事業、スーパーマーケットのトレイ・牛乳パック・割り箸の回収について理解する。 オーストラリアからは、検疫（AQIS）、カーベリーパークのカンガルー保護、ヒューオンパインの保護、シドニーオリンピックの環境対策を理解する。さらに、オーストラリアの自然が保たれているのは、これらの対策のお陰であることを理解させる。
第9時から 第10時	知られざるオーストラリアと日本の関係	およそ120年前に、天然真珠と白蝶貝を求めてオーストラリアの木曜島にわたった、紀伊半島南部の日本人について理解させる。さらに、木曜島に残る日本文化についても理解させる。
第11時から 第12時	家族って？	オーストラリアのティムフッシャー副首相が「病気の子どもと過ごしたい」という理由から辞意を表明したこと、オーストラリアでは一般的に単身赴任はあまりないこと、無線授業で母親が先生の役割をすることなどと、自分達の家族とのかかわりを比較しながら、家族のありかたを考える。
第13時から 第17時	まとめ	いままで学習して考えたことや感じたことを、レポートにまとめる。

5、本時の指導（1/17）

(1) 主題名 「多文化主義」

(2) 到達目標

ディスクリマドットゲームをすることによって、マイノリティとマジョリティの立場の違いを、ビデオ等の資料から多文化主義の重要性についてワークシートに記入することができる。

(3) 本時の展開

段階	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教師による支援	*留意点 ○評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 自分達のまわりの生徒と、オーストラリアの教室の顔ぶれを比較 	<ul style="list-style-type: none"> 机を廊下に出し、椅子を後ろにさげて円になって床に座る 自分から見える顔と、オーストラリア発見のビデオから見られる、教室の生徒の顔を比較する。 気づいたことを発表する <ul style="list-style-type: none"> *オーストラリアの教室には色々な人種の生徒がいる 	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア発見のビデオを見せる 多くの人種が学級にいることを強調する 	<ul style="list-style-type: none"> *TTで実施する
展開	<ul style="list-style-type: none"> ディスクリマドット（多文化社会の疑似体験） 	<ul style="list-style-type: none"> 説明を聞く 目を閉じる 目を開けて、自分の旗と同じ人と手をつないで座る 感想をプリントに記入する。 T2の感想を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> *自分がどのグループにも所属しないのが、とても寂しい 多数派の数人が感想を発表する <ul style="list-style-type: none"> *自分の仲間が多くて安心できる 感想を聞いて、思ったことをプリントに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> プリント配布 ゲームの説明 生徒の額に旗のシールを貼る T1は机間巡視 T2は少数派を代表して、感想を言う T1、T2は机間巡視 	<ul style="list-style-type: none"> *T1は説明、T2はゲームに参加する ○意欲を持ってゲームに参加したか ○マイリティーとマジョリティーの立場の違いを理解できたか
<p>めあて・・・オーストラリアのような多民族が暮らす国で、どうすれば、少数派を不安な気持ちにさせないで済むだろうか。</p>				
終末	<ul style="list-style-type: none"> 多文化主義のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> *少数派を尊重する *多数派は少数派を排除しない オーストラリア発見の「多文化主義」を見る プリントへ記入する 記入したものを発表する <ul style="list-style-type: none"> *1972年白豪主義が廃止され、多文化主義政策が始まった *異なる国や文化と深いつながりを持つ国民は、全人口の半分以上 *多言語放送、翻訳サービスなどが、政府のサービスとして行われている *現在は、人種による差別は法律で禁止されている 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見せる 補足説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○多文化主義の重要性を理解できたか

		<p>まとめ・・・第二次大戦以降ヨーロッパからの移民が増加し、それによって、さまざまな人種・民族がオーストラリアの国民となった。そのため、政府は多民族主義を導入し、人種によって差別することを禁止している。さらに、英語の出来ない移住者は無料で英語の授業を受ける事ができたり、標識にいくつもの言語で表示するなど、英語が読めない人でも生活に困らないような工夫がいたるところにされている。こうすることによって、少数派でも安心した生活が送られる。</p>	<p>・次時の予告 多文化社会の中から、少数派であるアボリジニについて学習することを伝える</p>	
--	--	--	---	--

(4) 本時の評価

- ① 意欲を持ってディスクリマドットのゲームに参加できたか。
ゲームへ参加している態度と、ゲームの感想発表やプリントへの記入によって評価する。
- ② マイノリティーとマジョリティーの立場の違いを理解できたか。
プリントへの記述によって評価する。
- ③ 多文化主義の重要性を理解できたか。
プリントへの記述と発表内容によって評価する。

参考・資料等

- ・オーストラリア発見 (2000年版、1995年版) 豪日交流基金
- ・オーストラリアの検疫について オーストラリアWebのHP
- ・ヒューマンライツ 明石書店
- ・豪州パンフレット (99～00版) オーストラリア政府観光局
- ・アボリジニ民族の地図 アボリジニセンターのタンダニアで購入
- ・所さんの目がテン 日本テレビ
- ・神々の詩 TBS
- ・ウルルン滞在記 TBS
- ・世界不思議発見 TBS
- ・旅サラダ テレビ朝日
- ・各新聞記事 読売新聞社、東奥日報社

その他

① ディスクリマドットについて

このゲームは、多数派が少数派を排斥することによって起こる感情について、話し合うための単純な実験である。生徒を円形に座らせ、目を閉じさせる。一般的には、4色のシールを1枚ずつ額に張っていく。4色のシールの枚数は、ほぼ同じになるようにしておく。他方、この4色とは異なる色を2～3人の額にはる。目を開け、何も話さずに同色の者同士でグループをつくるように指示する。少し時間が経過すると、4つの大きなグループができ、他の色をつけられた3人は、同色の人を探している状態になる。つまり、多数派と

少数派を意図的につくり、そのときに起こる感情について話し合うものである。

今回は、色のシールにかえて、「オーストラリア発見 2000 年版」の教師用資料 P 1 6 を参考に、イギリス、中国、フィリピン、ドイツ、アボリジニの旗のシールを生徒の額にはることにした。準備する旗のシールは、生徒の人数によって異なるが、上にあげた順に枚数を減らしていく。つまり、アボリジニの旗の枚数が、一番少なくなるのである。T 2 の教師には、アボリジニの旗のシールをはる。

② 第 7 時～8 時の授業を受けた感想（4 組 井上司子さん）

私は、今回オーストラリアの環境を勉強して、オーストラリアはいろいろ環境のことを考えているんだなと関心しました。

ヒューオンパインの木は、家具や石鹸・虫除けにまで使われていて、とても地球に優しいと思いました。クーベリーパークは、ボランティアでカンガルーの子どもを育てていて、私もやってみたいと思いました。去年行われたシドニーオリンピックのスタジアムは、老人や車椅子の人たちのことも良く考えてつくられていたので、すごいと思いました。

このように、さまざまな対策がとられているので、日本もオーストラリア以上に環境について考えて欲しいと思います。ますますオーストラリアに行ってみたくなりました。（食べ物は、持ち込まないで行きたいです。）